

吐山地域学校規模適正化検討協議会に関する会議が5月30日(土)に開催されました。

## 会議の概要

## 検討協議会のテーブルで地域の考え方を反映

学校規模適正化は、少子化に伴い児童・生徒数の減少傾向にあるなかで、全国的に課題となっています。奈良市では、平成20年1月に「奈良市学校規模適正化実施方針」と「中学校区別実施計画」を策定し、より良い教育環境の整備・充実のため学校規模適正化に向けた取組を進めています。平成27年度は、精華小学校と帯解小学校が、柳生中学校と興東中学校が統合再編で新しい学校になりました。都祁地域においては、過小規模にある吐山小学校・六郷小学校・並松小学校と都祁小学校を平成29年度を目途に統合再編し、都祁小学校または都祁中学校敷地を候補地として、一小一中の小中一貫教育を目指しています。

本年2月、吐山地域では、子どもたちの将来のために、教育環境をより良いものにするために引き続き協議を進めていくことが確認されました。

今回は、今日までの経緯ならびに教育行政を巡る動きについて認識の共有を図り、今後は、吐山地域学校規模適正化検討協議会を通じて吐山の考え方を示していくことになりました。

## 取組経過および四囲の状況変化についての説明

### 吐山地区（幹事）からの説明

- ・ 新年度に入り一部委員の交代ならびにPTA代表に学級委員も加わっていただいた。
- ・ 奈良市中期計画に伴う『児童数減少への対応を考える会』の取組についての報告。
- ・ 前回2月の打合せ会の内容について打合せ会ニュース（全戸配付済）により報告。

### 市教委（教育政策課）からの説明

- ・ 奈良市学校規模適正化の取組は平成19年度にスタート。都祁地域は、平成23～25年の中期計画において、「並松小学校・吐山小学校・六郷小学校は過小規模であり、今後も過小規模が継続するようであれば、都祁小学校を含めて統合再編等を検討する」。
- ・ 都祁地域において、平成29年度を目途に統合再編を考えており、吐山地域も検討協議会において、統合再編に向けてご協議をお願いしたい。

### 委員からの質問・意見等

[詳細・市教委の回答は裏面]

- ・ 子どもの教育環境として、複式学級や学校規模の評価には一長一短があり、まだ評価ができない。先生経験者の話も聞きたい。保護者の声を良く聞いて取り組んで貰いたい。主任児童委員も加わってもらったら良い。
- ・ 今進めようとされている統合再編は、再編しても小規模校であり、過小規模の解消にしかない。国が1月に示した指針では、『少子化に対応する活力ある学校づくり』とサブタイトルを付けているような『少子化・人口減少社会』に適應するためにどんな学校づくりを目指すのか、まだ、ビジョンが分からない。過小規模より、こんな素晴らしい学校を創っていくという構想を示していく必要がある。
- ・ 平成29年4月目途に統合再編の設計予算がついたと聞くと、ビジョンがあつて設計（立地含む）するべきで、唐突過ぎる。都祁の他の3校区では、もう再編が決まったような話をする人もいる。時期を独り歩きさせるべきでない。
- ・ 地域における学校の存在・意義はどう考えているのか。伝統文化の継承教育は難しくなると思う。
- ・ 仮に統合再編する場合、跡利用をどうしていくのか、セットで考える課題である。

### 検討協議会立上げについて

- ・ 単なる過小規模校解消の手立てではなく、少子高齢化社会に対応できる教育政策、環境づくりに関する論議を深める必要があり、検討協議会を立ち上げて話し合い、吐山地域の考え方を示していくことを確認。併せて、再編等により生ずる諸課題の扱いについても、要項に記すことを市教委と確認。

## 教育政策における国や市の状況（教育政策課より）

- 中央教育審議会の報告を受けて文科省は、本年1月適正化等に関する手引をつくり、『少子化に対応した活力ある学校づくり』を指導しており、奈良市の取組と大きくは変わらないが、小中一貫、CS(コミュニティスクール)、地域教育協議会等を念頭におきながら教育環境を整えていきたい。
- 総合教育会議の設置が法律（平成27年4月1日施行）で決まり、6月3日に第1回奈良市総合教育会議を開催し、今年度中に大綱を策定する予定。

## 質疑・意見（⇒ 市教委回答）

- 統合再編について平成29年4月を目途とされている根拠は？  
⇒ 中期計画において「並松小学校・吐山小学校・六郷小学校は過小規模であり、今後も過小規模が継続するようであれば、都祁小学校を含めて統合再編等を検討する」としており、これに基づいて平成27年度予算に設計予算が計上されました。平成29年4月は想定できる最短のスケジュール。
- 設計予算29百万円程度と聞いているが、設計費が1割と考えたら、どういう校舎の設計を考えているか。  
⇒ 都祁小学校もしくは都祁中学校の敷地での統合校のどちらでも対応できるように設計費を確保。都祁中学校の建築の際も設計費については1割に満たなかったことから、一概に1割相当には当たらないと考えている。
- 小中一貫は、設計に関して浮上してきたが、教育視点での視野をどこにおいているのか分からない。  
⇒ 分離型、一体型であれ、義務教育9年間を見越して子どもの成長に合わせた連続性を重視している。
- こぶしが丘は、学校が近くにある利点を考えた住まい。再編すれば、過疎化に拍車が掛からないか。  
⇒ 子どもの教育環境を整えるためにも過小規模を解消したいと考えています。また、スクールバスを運行することで、通学の安全を確保させていただきたいと考えている。
- 子どもを鍛え・育てる点から言えば、中学生は自転車通学でも成長している。⇒ 今後、協議いただきたい。
- 学校規模の在り方は世界的な基準からはどうなのか。過小規模ゆえに問題なのか疑問である。  
⇒ 外国の状況までは把握していないが、日本の状況は文科省の規定で進めていかないといけない。義務教育というのは、日本中どこでも同じレベルの一定した教育が受けられることであり、そのうえで、小・中の基準を設けている。
- 前回は話が合ったように、吐山は、現在の複式の評価はまだできない。少人数校・大人数の功罪を示して、再編してこんな学校にするということを具体的に示してほしいし、既実施校の評価も知りたい。  
⇒ ビジョンは今後お聞きいただきたいと考えています。平成27年度に統合再編した帯解小学校、興東館柳生中学校にてアンケートを実施した。平成23年度に統合再編した興東小学校のアンケート結果も含めて、メリット・デメリットをお知らせし、ご協議をお願いしたい。
- 都祁地域の他校区のこども園の保護者の話では、もう再編に決まったようなことを聞いていて不安である。未就学児の保護者は、吐山は委員に入っていない。主任児童委員も加わって貰ったら良い。  
⇒ 4地域には、同じ内容の話を説明している。4地域合意の上で進めていくことに変わりはない。  
⇒ 検討協議会を実施する際は、中学生の保護者も考えるなど、今後の相談をしていく。（幹事）
- 放課後子ども教室に関わっているが、子どもの成長に合わせるには低学年は少人数、高学年は大人数の学級が適しているという実感がある。低学年、高学年を分けるという考え方もある。  
⇒ 特定の学年での分離は学校運営・制度面から難しいのではないかと考えるが、検討する。
- 吐山の太鼓踊りの継承学習に支障はでないか。⇒ 郷土芸能の継承の取組につきましては、今後、統合された後にも実現できるよう検討を進めたい。
- 統合再編した場合、跡利用についても考える際に、まちづくりのビジョンについて説明できる課にも同席して欲しい。⇒ 関係部署を交えた話し合いの機会を設けてまいる予定。

## 今後について

- ◇ 今回の会議で色々とお出しいただいたような論議を深めていく必要があるため、これからは検討協議会を立ち上げ、吐山地域の考え方を示していくという方向性について、全員異議なく確認。
- ◇ 吐山地域学校規模適正化検討協議会の設置要項については、事務局と教育政策課で調整し、次回に確認いただく。
- ◇ 次回の日程・テーマ等は幹事・市教委で調整する。

お問い合わせ先：幹事 [中島、保仙] / 奈良市教育委員会事務局教育政策課 (TEL34 - 5386)